

タツナミガイ(軟体動物)の和歌山県白浜町瀬戸漁港船揚場における夜間出現 (続報)

久保田 信

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459
京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

Nocturnal appearance of *Dollabella auricularia* (Mollusca) at a wharf of the Seto fishing harbor, Shirahama, Wakayama, Japan (continued report)

Shin Kubota

Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, 459
Shirahama, Nishimuro, Wakayama, 649-2211 Japan

Abstract. From the late May to middle June in 2015, *Dollabella auricularia* (Mollusca) showed an intrinsically nocturnal appearance at a wharf of the Seto fishing harbor, Shirahama, Wakayama, Japan even in an extraordinary conditions without laying any eggs.

Key words: behaviour, *Dollabella auricularia*, egg, nocturnal, Wakayama, wharf

(要約)

2015年5月下旬から6月中旬にかけて、和歌山県白浜町瀬戸漁港のコンクリート製の船揚場の浅所(水深数m以内)で、タツナミガイは産卵が全く見られない異例の年でも夜間に出現する本来備わった行動を示した。

はじめに

軟体動物門後鰓類に属するタツナミガイ *Dollabella auricularia* は、和歌山県白浜町に所在する瀬戸漁港の船揚場で、産卵期を過ぎると夜間に出現することが前回の観察で初めて確認された(久保田, 2014)。今回は、産卵が見られなかった異例の年となったので、行動パターンに変化があるのか調査した。

材料と方法

和歌山県白浜町瀬戸漁港(33°41'16.9" N, 135°20' 38.9" E)の最奥にあるコンクリート製の船揚場の2区画で、岸壁沿いに船着き場に潮が様々な程度にさしこんでいる時刻に、タツナミガイが出現した個体数を、2015年5月24日から6月17日までの21日間(5月30日から6月2日を除く)、午前・午後と夜中、並びに日暮れと明け方の様々な時間間隔で、1日当たり

*連絡先 (Corresponding author): kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

2—7回、計89回を目視調査した。夜はLEDライトの照明下で調査した。調査区域は前回の区画（長さ7.3m、幅11.5m）に加え、その対岸の同じ位の面積の一箇所（長さ8.6m、幅11.5m）を増やし約2倍とした。ただし、新しい区画では夜間に電燈が灯っており、暗黒にはなっていない。調査期間中は、4時半頃になると夜が白み始め、また19時を過ぎると日の入り直後となり周囲は急速に暗くなっていった。これは前回とほぼ同じ状況なので、1日を昼間は5時31分から17時30分までとし、残りを夜間と区分した。期間中の最初は晴天であったが、後半になると梅雨入りで降雨が多かった。波当たりは漁港の最奥部の区域なので、調査期間中は穏やかで波立っていないことが多かった。

結果と考察

毎日少なくとも1回の調査を1月から継続中の2015年にも、和歌山県白浜町瀬戸漁港全体では、タツナミガイは5月17日から出現した。しかし、この初出現は、2014年では4月25日であったので、約1ヶ月遅れであった。今回も交尾行動が見られたが、全く産卵が行われず、ウミソウメンと俗称される卵塊は1個も見つからなかった。これは2014年の調査をはじめ、それまでの調査とは違って異例の現象といえる。ちなみに2014年には、タツナミガイの卵塊は5月中旬以降にこの調査場所では多数見られた。2014年の調査では本種は5月下旬以降にはいっ

さい昼間には出現しなかったが、今回は5月下旬からの調査では昼間にも出現した。特に、調査初日の5月24日には昼夜2回ずつ観察したが、すべての調査時刻に複数個体が出現していた。これは今回の調査の特例といえ、5月26日にも2回の昼間の出現があったのも特例であろう。続く5月27—29日までの3日間の計12回の観察では出現は全くなかったので、観察をこの後の短期間は休止とした。

6月になると調査初日の3日をはじめ、6日、12—13日、15日を除き（計19回の調査）、本種は頻繁に出現し、計15日間の調査の10日間で見られた。また、出現時刻の大半は、夜間であった（18回中の15回）（表1）。この昼夜で異なる明瞭な出現結果は前回（久保田, 2014）と一致した。

今回も1回の観察時の出現個体数は多くなく、最多で5個体に留まった。なお、夜間に照明のある区域では出現があまり見られなかった。また、前回と同様、本種の出現時間は1日の内で夕暮れ頃から始まった。

今回は産卵という多大なエネルギーを消費する行動が全くなされなかったので、産卵があってもなかっても本来備わっている夜行性の性質は変わらないと推察される。なお、アメフラシ *Aplysia (Varria) kurodai* の行動も前回には併せて報告したが（久保田, 2014）、今回は極端にその出現が少なく、産卵も全く見られなかった。解析ができなかった。

引用文献

久保田 信. 2014. アメフラシとタツナミガイ（軟体動物）の和歌山県白浜町瀬戸漁港船揚場における5月下旬の夜間出現. 日本生物地理学会会報, 69: 209-212.

(2015年6月17日 受領, 2015年10月16日 受理)

表1 タツナミガイの和歌山県白浜町瀬戸漁港船揚場岸壁での2015年5月下旬から6月中旬における昼夜（干潮時を除く）の出現頻度の相違。

Table 2. Different appearance of *Dollabella auricularia* between daytime and night in a day (excluding ebb tide) in the late May to middle June in 2015 at wharf of the Seto fishing port in Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan.

時間帯	5月		6月		5月—6月	
	出現	不在	出現	不在	出現	不在
5:31 - 17:30 (昼間)	4	13	3	26	7	39
17:31 - 5:30 (夜間)	3	8	15	17	18	25